

# 埋文にいがた

No. 47  
2004. 7. 30

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 今年度発掘調査現場の紹介

### にしかわうちきた 西川内北遺跡

(北蒲原郡中条町大字西川内字家ノ浦 148 ほか)

西川内北遺跡は越後平野の北東部、胎内川の扇状地に形成された自然堤防上に位置します。日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、昨年度から発掘調査をしています。今年度の調査は4月から6月までの約2か月にわたり実施しました。

調査の結果、遺跡は県内では例の少ない約1,300年前の奈良時代の集落跡であることがわかりました。見つかった遺構は、掘立柱建物や畝状遺構（畑の跡）、溝などがあります。掘立柱建物は4棟あり、このうちの1棟には柱が残っていませんでしたが、その他の建物は柱穴の中に柱が残存していました。

調査区の中央には川跡があり、4棟の建物は長軸がいずれも川跡の方向に向いていることから、建物は川を意識して建てられていたと考えられます。川跡を発掘したところ、中からたくさんの土師器や須恵器が出土しました。不要となった食器類を川の中に廃棄したのでしょう。

これから発掘調査報告書を作成し、詳しい調査成果についてまとめる予定です。

(調査担当者：(株)吉田建設 野水晃子)



川岸から出土した遺物



須恵器出土状況



掘立柱建物の柱



発掘調査風景

## やち 谷内 A 遺跡

(西蒲原郡吉田町大字富永字谷地 2782 ほか)

谷内 A 遺跡は西蒲原郡吉田町に所在する古墳～平安時代の遺跡です。国道 116 号富永交差点の改修工事に伴い、交差する県道を挟み南北 75 m、東西 2～14 m の 360 m<sup>2</sup>について調査を行いました。現況は宅地造成による盛土が 0.8～1.2 m 施されており、遺跡は現表土面から 2 m 下の標高約 5 m に認められます。遺跡は沖積平野の微高地上に立地するものと考えられますが、地盤は非常に軟弱な粘土やシルト層です。遺物包含層は 3 層確認でき、下層は古墳時代前期、中層は平安時代 9 世紀末～10 世紀初頭、上層は 10 世紀前半と考えられます。古墳時代前期の遺物は非常に少なく、遺構も検出されませんでした。しかし、吉田町ではこれまで古墳時代の遺跡が確認されておらず、貴重といえます。平安時代では土坑 1 基、溝 3 基、炭化物集中範囲 4 か所などを検出しました。狭い調査範囲のため詳細は分かりませんが、炭化物集中範囲に伴い焼土や多量の土器が検出されており、平地住居などの住まいがあった可能性があります。また、遺物は中層で小泊産の須恵器杯などを含みますが、上層は土師器で占められる点が特徴です。谷内 A 遺跡は沖積平野における生活の様子を知る上で貴重な遺跡です。

(荒川隆史)



調査範囲を北から望む



検出した平安時代の溝と土坑



出土遺物  
(左上：古墳時代前期、  
中央：9 世紀末～10 世紀初頭、  
右：10 世紀前半)

## ひがしはらまち 東原町遺跡

(柏崎市東原町字下原 22－2 ほか)

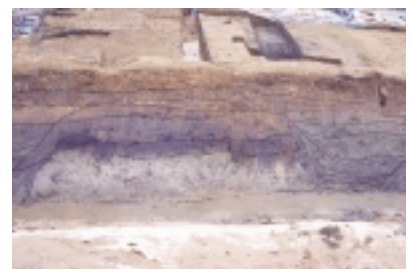
東原町遺跡は 石川下流域左岸の自然堤防上に立地しています。遺跡と 石川の距離は直線で約 30 m になります。発掘調査は昨年度からの継続で、4 月中旬から開始し、6 月中旬に終了しました。今年度は調査区東側について 2,000 m<sup>2</sup> (1,000 m<sup>2</sup> を 2 層) を調査しました。

調査の結果、井戸 3 基、溝 4 条、土坑 5 基、水田の畦、昨年度の調査でも検出された盛土と溝などが確認できました。建物跡は検出されませんでした。昨年度の調査区から続く集落の一部であることがわかりました。また集落内で河川跡も検出され、遺構との切り合いから、遺跡の変遷を確認することができました。遺物ではカワラケや珠洲焼、青磁などが出土しています。これらの遺物は、ほとんどが小さな破片ですが、時期は 13 世紀後半頃から 15 世紀のようです。今後は、昨年度の調査成果を加味しつつ、出土した遺物と遺構を照合することで、遺跡の変遷を明確にするとともに、中世の土地利用の一端を明らかにしていくことが課題となります。

(山崎忠良)



中層の完掘状況～奥は米山



盛土と溝の断面



**さわだ**  
**沢田遺跡**  
(北蒲原郡中条町大字赤川字沢田ほか)

中条町は越後平野の北東部に存在します。遺跡は新潟砂丘の後背湿地に立地し、飯豊山地から平野に向かって西流する胎内川の扇状地の末端に位置します。現況は水田であり、現在の水田面の標高が約9.7m、遺物包含層はその1.2m程下から始まります。本調査は、平成16年4月に開始しました。沢田遺跡には上下2枚の包含層があり、いずれも粘質のシルト層で炭化物を含みます。出土した土師器の器形から、どちらも10世紀前半（平安時代前葉）に属すると



**地床炉**

考えられます。遺構は当時の微高地を中心に分布しており、地床炉、石を含む炉、焼石を含む集石、炭化物集中部、柱穴などがあります。遺物には、土師器、須恵器、礫などがありますが、特筆すべきは製塩土器の存在です。製塩土器は、指による粗い調整のみで粘土紐の痕を明瞭に残す平底の土器で、細かく砕けた状態で出土しました。製塩土器は、主に旧地形の斜面部から出土しています。検出された炉が製塩炉であるかどうかはまだ断定できない状況ですが、何らかの形で製塩に関連した遺跡であると考えられます。

(調査担当者：(株)加藤建設 熊 保)



**石を含む炉**



**焼石を含む集石**

## 報告書作成中の遺跡

### へびかに 蛇谷遺跡（上越市大字向橋字蛇谷）

蛇谷遺跡は上信越自動車道建設に先立ち、平成8年4月～12月に記録保存のための発掘調査を行ないました。遺跡は頸城山地からのびる尾根先端部から谷地形へと下る斜面に位置します。この斜面は北から南へ標高を下げ、標高約50mの上段、約40mの中段、約30mの下段という自然地形による3面の平坦面が存在し、上・中段で後期旧石器時代～縄文時代、下段で古代～中世の遺構・遺物が検出されました。

旧石器時代の石器は、およそ3か所の集中地点を形成して約1,000点が出土しました。細長い石のかげら（石刃）を製作する石器作りの特徴から、今から約20,000年以上前の石器群と考えられます。上越地方ではこの時代の遺物がまとまって出土した初めての事例となります。縄文時代では中期の竪穴住居・埋設土器等が検出されました。ほかに上段の尾根沿いには動物を狩るために掘られたと考えられる陥し穴状土坑列が設けられていました。古代の遺構は住居跡3基・掘立柱建物跡4基・井戸等とこれらを囲むように廻る溝が検出され、当時の集落のあり方を考える上で貴重な事例を提供しています。（土橋由理子）



縄文時代の竪穴住居



旧石器出土状況

### かいどう 海道遺跡（上越市大字向橋字海道）

海道遺跡は上信越自動車道建設に伴って、平成7・8年の2か年にわたって発掘調査しました。金谷山南側を東に向って流れる儀明川が平野部に達した左岸平坦地に遺跡は位置しています。調査の結果、たくさんの遺構、遺物が検出されました。遺跡北側では主に平安時代、南側では中世が主体を占めていましたが、明確に遺構の時期を区別することはできません。全体では、掘立柱建物跡11棟（今年度の整理段階で図上で認識したもの）、井戸62基、土坑63基、溝53基などがあります。特に井戸からはたくさんの土器や木製品が出土しました。平安時代の遺構では、土師器を焼成したと考えられる土坑が注目されます（写真上）。長さ1.35m、幅1.1mの方形を呈しており、側壁がよく焼けていました。土器を復元した結果、形の異なる鍋、甕が4個体残っていたことがわかりましたが復元できたのは3個体です（写真下）。

出土遺物には、平安時代の須恵器、土師器、灰釉陶器、布目瓦、中世の珠洲焼、土師質土器、青磁、砥石、石鉢、五輪塔部分、近世の染付、瓦などがあります。井戸からは漆紙も出土しています。漆容器の蓋として使われていたと思われ、円形を呈し、8枚に折りたたまれています。今のところ文字は認められませんが、今後詳しく調べる予定です。現在整理作業は、遺物の実測を主に行っていますが、報告書刊行は平成17年度の予定です。（高橋 保）



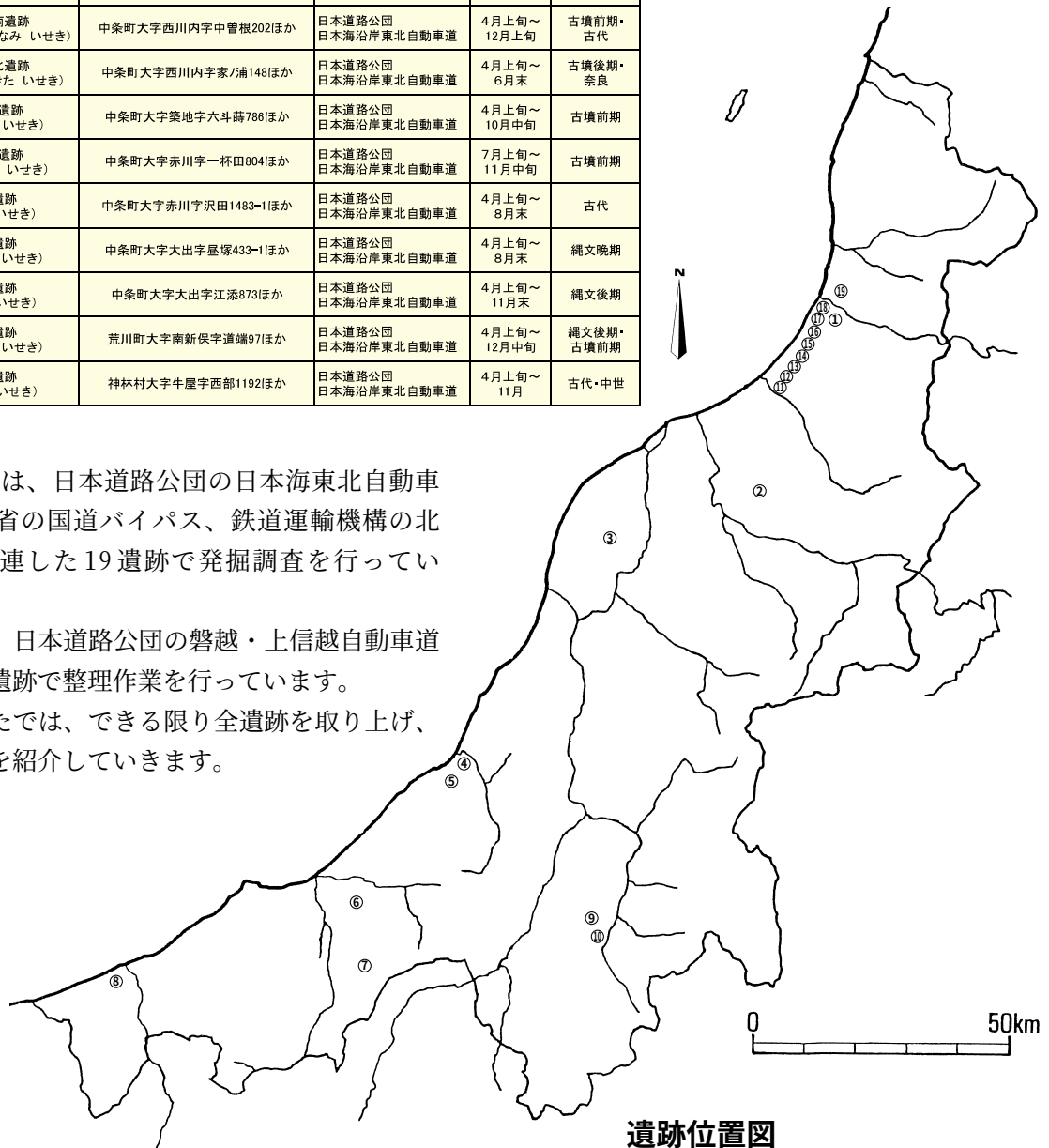
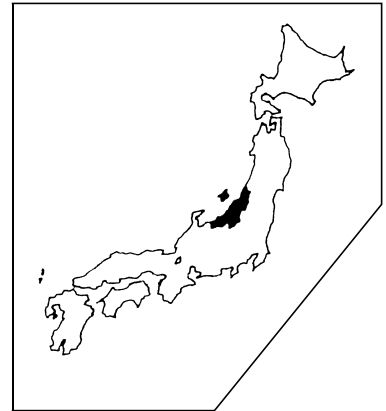
土師器焼成遺構（？）



復元土器

## 平成16年度発掘調査遺跡

| 位置図上の番号     | 遺跡名                       | 現場住所                 | 関係事業名                              | 調査期間(予定)       | 時代(時期)        |
|-------------|---------------------------|----------------------|------------------------------------|----------------|---------------|
| 1           | 道端遺跡<br>(みちばた いせき)        | 岩船郡荒川町大字南新保字蟹田地内     | 国土交通省<br>国道113号荒川道路                | 7月中旬～<br>9月末   | 古墳時代          |
| 2           | 大坪遺跡<br>(おおつぼ いせき)        | 阿賀野市寺社甲2218ほか        | 国土交通省<br>国道49号安田バイパス               | 5月中旬～<br>11月下旬 | 古代・中世         |
| 3           | 谷内A遺跡<br>(やちA いせき)        | 西蒲原郡吉田町大字富永字谷内2782ほか | 国土交通省<br>国道116号富永交差点改良             | 4月上旬～<br>5月中旬  | 古代            |
| 4           | 東原町遺跡<br>(ひがしはらまち いせき)    | 柏崎市東原町字原20-1ほか       | 国土交通省<br>国道8号柏崎バイパス                | 4月上旬～<br>6月中旬  | 中世            |
| 5           | 下沖北遺跡<br>(しもおきた いせき)      | 柏崎市大字下方字下沖374ほか      | 国土交通省<br>国道8号柏崎バイパス                | 6月中旬～<br>11月中旬 | 古代・中世         |
| 6           | 三角田遺跡<br>(みつた いせき)        | 上越市大字下野田字三角田161-1ほか  | 国土交通省<br>国道253号上越三和道路              | 4月上旬～<br>10月末  | 古代・中世         |
| 7           | 五反田遺跡<br>(ごたんだ いせき)       | 中頸城郡板倉町大字米増字横田226ほか  | 独立行政法人鉄道建設・<br>運輸施設整備支援機構<br>北陸新幹線 | 4月上旬～<br>7月中旬  | 平安            |
| 8           | 須沢角地遺跡<br>(すざわかくち いせき)    | 西頸城郡青海町須沢字大坪3263ほか   | 独立行政法人鉄道建設・<br>運輸施設整備支援機構<br>北陸新幹線 | 10月～<br>11月中旬  | 平安            |
| 9           | 金屋遺跡<br>(かなや いせき)         | 南魚沼郡六日町大字余川字蟻子山35-1  | 日本道路公団<br>関越自動車道                   | 4月上旬～<br>8月中旬  | 古墳・平安         |
| 10<br>(調整中) | 北沖東遺跡<br>(きたおきひがし いせき)    | 南魚沼郡六日町大字小栗山字北沖19-13 | 国土交通省<br>国道17号六日町バイパス              | 8月上旬～<br>10月末  | 古墳時代          |
| 11          | 西川内南遺跡<br>(にしかわうちみなみ いせき) | 中条町大字西川内字中曾根202ほか    | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>12月上旬 | 古墳前期・<br>古代   |
| 12          | 西川内北遺跡<br>(にしかわうちきた いせき)  | 中条町大字西川内字家ノ浦148ほか    | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>6月末   | 古墳後期・<br>奈良   |
| 13          | 六斗蔦遺跡<br>(ろくとまき いせき)      | 中条町大字築地字六斗蔦786ほか     | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>10月中旬 | 古墳前期          |
| 14          | 一杯田遺跡<br>(いっばいだ いせき)      | 中条町大字赤川字一杯田804ほか     | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 7月上旬～<br>11月中旬 | 古墳前期          |
| 15          | 沢田遺跡<br>(さわだ いせき)         | 中条町大字赤川字沢田1483-1ほか   | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>8月末   | 古代            |
| 16          | 星塚遺跡<br>(ひるづか いせき)        | 中条町大字大出字星塚433-1ほか    | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>8月末   | 縄文晩期          |
| 17          | 江添遺跡<br>(えぞえ いせき)         | 中条町大字大出字江添873ほか      | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>11月末  | 縄文後期          |
| 18          | 道端遺跡<br>(みちばた いせき)        | 荒川町大字南新保字道端97ほか      | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>12月中旬 | 縄文後期・<br>古墳前期 |
| 19          | 西部遺跡<br>(せいぶ いせき)         | 神林村大字牛屋字西部1192ほか     | 日本道路公団<br>日本海沿岸東北自動車道              | 4月上旬～<br>11月   | 古代・中世         |



遺跡位置図

平成16年度は、日本道路公団の日本海東北自動車道、国土交通省の国道バイパス、鉄道運輸機構の北陸新幹線に関連した19遺跡で発掘調査を行っています。

整理遺跡は、日本道路公団の磐越・上信越自動車道に関連した9遺跡で整理作業を行っています。

埋文にいがたでは、できる限り全遺跡を取り上げ、発掘調査状況を紹介していきます。



## センター見学・体験活動の様子

毎年多くの小・中学生が、埋蔵文化財センターを訪れます。今年も、6月までの間に小学校34校、中学校4校、約2,000人の見学者を数えました。センター見学に加えて、ほとんどの児童・生徒達が、火おこし・石器・土器作り等の体験活動にも取り組みました。

また、一般の団体では、地域で発掘調査した遺跡をとりあげ、事業団職員から調査結果についての説明を聞いたり、実際に出土した遺物に触れ、地元の遺跡に愛着を深めるというような取り組みもありました。（センターでの体験活動については予約が必要です。詳細は、普及担当にお問い合わせ下さい。）



「まいきり」による火おこし体験



黒曜石を使った石器体験

## 新資料展の展示が新しくなりました

6月末まで、上越市埋蔵文化財センターで特別展示していた昨年度発掘調査遺跡の出土品が新資料展コーナーに展示されました。五反田遺跡（板倉町）、台ノ上・峪ノ上遺跡・下割遺跡（上越市）、東原町遺跡（柏崎市）、余川中道遺跡（六日町）、反貫目遺跡（中条町）の出土品、パネル写真を展示しています。どうぞご覧ください。



正面：余川中道遺跡



左から：台ノ上遺跡・峪ノ上遺跡・下割遺跡

## 埋文コラム 「発掘から見えてきた注口の歴史」

### ちゅうこう 注口土器

縄文時代後期から晩期にかけて注ぎ口のついた注口土器が普及します。注口土器は細長い管状の注ぎ口がついています。また、胴部に穴が開いている土器も出土します。竹の管などを挿し込んで、液体を注ぐために使用したと考えられます。しかし、中身の液体についてはまだよくわかっていません。注口は口径が小さく、少量ずつ分けるのに適していますし、注口部が下位に付いていて液体がわずかしこ容れられないものもあります。祭祀の際、酒盛り等に用いたのかもしれませんが。中条町野地遺跡は平成13年の試掘調査で新たに発見したもので、縄文時代後期中葉から晩期前葉においての拠点的な集落であったと考えられます。この確認調査で注口土器が数点出土しています。この土器で注いだ飲み物は特別な味わいがありそうですね。



野地遺跡 注口土器 左：後期後葉／  
右：晩期

### どびん・てつびん 土瓶・鉄瓶

現在、家庭でも写真に近い土瓶を使用しているのではないのでしょうか。はじめは、葉を煎じるための薬土瓶として直接火にかけて使用していたようです。やがて、鉄瓶も登場します。お茶そのものが古くは薬で、時代が下るにつれて嗜好品として常用されるように、湯を沸かすのは鉄瓶、茶をたてる道具は土瓶と機能分化していきました。写真の土瓶は上越市高田城下鍋屋町遺跡（近世）の出土です。正面左の土瓶には「福壽」と書かれています。長寿と幸福を願って使用したのでしょうか。



高田城下鍋屋敷町遺跡 土瓶と蓋

### かたくち 片口鉢

片口鉢は口縁の一方に注口が付くもので、江戸時代を通して出土します。絵画資料から、大容器から小容器へ液体のものを移す道具として使用していたことがわかります。高田城下鍋屋町遺跡から出土した片口鉢は、現在でも十分使用できそうですね。しかし、近年に入り流通が小容器化したことから、このような道具も消えてしまいました。残念なことです。



高田城下鍋屋敷町遺跡 片口鉢

### ゆきひら 行平鍋

土鍋の一種で、18世紀末頃から出現します。蓋付きの片手鍋で、注口が付いています。在原行平が塩を煮詰めさせた故事からこの名前がつけました。新津市江内遺跡（中世・近世）からは、多くの近世陶磁器が出土しました。写真の陶器行平鍋はそのひとつです。把手には草花のスタンプが押してあります。汁物を調理する時は、注口付きのこの鍋は重宝したことでしょう。（今野明子）



江内遺跡 行平鍋と蓋

〈引用・参考文献〉「縄文土器の研究」 小学館 小林達雄 1994

県内の遺跡・遺物 45

## 三諦寺経塚出土品 一括（昭和37年 県指定）

遺物出土地：柏崎市大字新道 5963 三諦寺

三諦寺は、柏崎平野の西側を北流する鵜川中流域、新道集落の西側の丘陵上に位置しています。真言宗の寺院として、応永元（1394）年に創立されたと伝えられています。

明治30年（1900年）、寺の裏山の中腹が大雨で崩れ、崩土から珠洲壺が発見されました。その中には、銅製経筒、銅製梅花双雀鏡、朱墨交書妙法蓮華経などが納められており、経塚（經典を供養して地下に埋納した遺構）が存在していたことが確認されました。

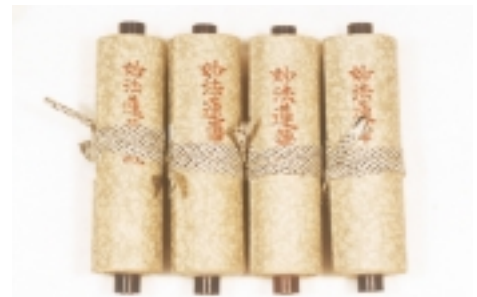
経筒は残片から1本のみ埋納と推定され、直径10cm程と推測されています。鏡は、三面出土し、大きさは8.5～9cm程であり、文様から平安時代後期の和鏡と推定されています。経巻奥書には「宇川庄」、「新堂村」、「安楽寺」、「建仁三年（1203）」などの文字が確認され、『吾妻鏡』文治2年（1186）3月12日条の「三箇国庄々未進注文」に記されている「宇河庄」の荘域や、新道の字名・三諦寺の由来（安楽寺と末寺の地福院・正徳寺を併せて三諦寺とした）を考証するうえで重要な資料となっています。

寺の裏山である風牧山（かざまきやま）には、風牧山遺跡が存在しています。遺跡の大半が、おけさ柿の栽培団地として削平されたため、遺跡の具体像は明らかではありませんが、文保二年（1318年）銘が刻まれた石塔と三諦寺経塚の存在、周辺の遺跡（前掛り遺跡など）との関連から、中世においてはこの一帯が宗教的な聖域であったと推定されています。

（写真・資料提供 柏崎市立博物館）



鏡



珠洲壺（外容器）



紙本朱書法華経

### 埋文にいがたNo. 47

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1

TEL (0250) 25-3981 FAX (0250) 25-3986

e-mail: niigata@maibun.net URL: <http://www.maibun.net>

印刷 新高速印刷(株)